
ドラえもんズ

春崎やよい

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ドラえもんズ

【Zコード】

Z1503E

【作者名】

春崎やよい

【あらすじ】

のび太の部屋にいきなり現れたドラえもんズ。ドラえもんズの中に女となってしまった王ドラ。王ドラをめぐつての対決が繰り広げられていくハチャメチャラブコメディ！

恋人になるか？

此処は、21世紀

俺がいる国は、アメリカ

キッドは、今鏡の前に立つて自分を見ていた。

紅い帽子に白い服を着て立っている、靴は、茶色いブーツを履いている少年が鏡の前でたたずんでいる。

「なんで、こんなすがたになっちゃったんだよ・・・」

キッドは、今人間の姿になってしまった。

なぜ、人間の姿に変化してしまったのは、わからない

此処で、こうしているのもなんだ。ドラえもんのところに行こう

キッドは、四次元ハットからタイムマシンを取り出して、日本に移動した

日本にキッドの仲間、ドラえもんがいるからだ。

練馬区にドラえもん・のび太が住んでいる。

野比家に今現在、ドラえもんズの面々が集まっている。

どうこうわけか、みんな此処に集まってきたのだ。

今、此処にいなのは、キッドだけ。たぶん、此処に来るだりうつのび太は、予想していた。

「それにしても、なぜ人間になってしまったのでしょうか？」

王ドラがドラえもんに投げかけた。

ドラえもんも考へているが、それがなぜなのかは、わからないようだ。

引き出しが開かれ、キッドが出てきた。

「のび太、ドラえもんは？」

「此処にいるよ。」

キツドからドラえもんへと視線を移した。のび太の隣には、ドラえもんの隣には、

一人の前には、男集団と女の子が一人、ドラえもんの前に座っている

キッドは、首をかしげた。

「キッズ、どうしましたか？」

首を傾げて自分を見ていることに女の子が、キッドの前まで来て、

立本堂

「聞きたらどうですか？」

「ああ、そうだな」

「お前誰だ？」
女は怪物通り、しゃべりかけた。

気になっていた」とをキッドから言わせて女の子は、泣きそうな顔

「調と俺の名前を知つていい。と一つ事は・

「玉子が？」

を見つめ
懲る懲るギラエモ
體へかけた ギラエが懲る懲るなかにギラエ

「そ、う・・・で、す・・・」

判つてもらえたようで王ドラは、頬を少し赤くさせていた。

キッズは、エドワードの前で片膝を着せ、右手を取った。

「王ジラ、可愛いいじやねえか。惚れちまつたぜ！」

その場にした誰もがひいたのは、手にとれるように判つただろ？
そして、（キツドードリミがいるだらうとー）と心中で、突つ込

むものもいた。

「キッド・・・」

王ドーラは、ちよつと違つた反応を示した。

おこ、おこ、王ドーラ忘れちまつたのか？キッドには、ドーラがこる
といふことを。

ドラえもんズの面々は、思つていたのであつた。

王ドーラは、ちつきよりも頬を赤くさせていた。そして王ドーラは、キ
ッドの胸の中に飛び込んだ。

それにマタドーラ自身も信じられないような表情をしていた。
俺が女だと間違えたときとキッドに告げられてくるときと全然違つじ
やないか！！

突つ込みたがつたが、言わなかつた

だつて、ここで突つ込んだら王ドーラに向をされるか分からなかつたから

「王ドーラは、お前のじやないからな」

マタドーラがキッドに宣戦布告した。

まるで、お前には絶対渡したくないとでも威嚇しているかのような
感じのオーラを纏つてゐる。

「判つてゐる。でも、王ドーラは俺のそばにいて欲しいだけさ」

「俺も一緒にだ。」

いつして、王ドーラの取り合ひの口々が始まつたのであつた。

のび太の悩みが一層増えるのであつた。

恋人になるか？（後書き）

最初なので、短めで下さいません。
でも、楽しい話になると想いますので、交互ご期待！

参戦ドラパン！勝つのは、誰？！

その日、のび太と王ドラは、のび太の母、玉子に王ドラえもんズのことを話した。

しばらく此処に泊めてもう許可を貰った。

上に上がる前に玉子は、ドラえもんズがいる部屋、のび太の部屋に乗り込んできた。

玉子は、一人ずつ部屋から連れ出して、着せ替えをさせられていたそうだ。

最後に王ドラが着せ替えから戻ってきた。さつきまで、来ていた服と変わっていた。

女の子が着る服をきている。

しかも、玉子が普段着ないような服を王ドラが着ているのを見た。

「王ドラ・・・その服・・・」

のび太が王ドラに話しかけた。

他のみんなは、あっけに取られてしゃべれないような状態だったから「この服ですか。玉子さんから貰つたんです。もう着ないからって」どうですか？って王ドラは、一回転して見せた

それを見たドラえもんズのみんなは、一気に王ドラの虜になつたのは言うまでもない

王ドラは、普通の女の子よりも少し小さく、髪の毛は橙色で、三つ編みにしている。

目は橙色できらきらしている。

ちゃんと、胸もあって、ことはあるだらうのサイズだった。

体つきもモデルくらいのナイスバディ？見たいな感じ。

「はあ・・・あ・・・」

ため息をついているものがいる。ドラパンだ。明らか今まで、見たこともないような表情をしている。

ドラパンは、王ドラの前に来て、膝まつき王ドラの手を取り、手の

甲にキスを落とした。

「ドーラパン……？」

王ドーラ自身もかなり驚いていたようだ。

ドーラパンって、こんなことしましたつけ？

キッドとマタドーラも「じ、じ、じ」とあわせじい効果音を出しながらの形相でドーラパンを見ていた

いつまでも、王ドーラの前で膝まついているドーラパンをマタドーラは、ドーラパンの襟首を持ち上げた。

「は・な・れ・ろ・！」

マタドーラは、ドーラパンを畳の上にこねがした。

我慢の限界だつたらしい。

けれど、マタドーラは怪力の持ち主、相当の力があったので、ドーラパンは畳に相当な勢いで叩きつけられた。少し、膝小僧が衣服の下で擦り剥けていた。

愛しの王ドーラに何をするんだと言わんばかりの甲をドーラパンに向かっている。

ドーラパンはため息をついて、マタドーラを見た

「手を出さないお前らが悪い。それに私は、王ドーラが好きなのでな！」

ドーラパンの甲は、マタドーラとキッドに向かうらでドーラパンの甲だ。

哀れむよつなそんな甲ではなく、絶対王ドーラを持つていくと
のび太は、ため息をついた。

参戦ドラパンー勝つのは、誰?!(後書き)

ドラパンのキザな台詞を考えるのに手間取ってしまった。
キッドとマタドーリ、ドラパンの行く末は?どうなるか?やはり・・・
次回をお楽しみに!...評価お願いします!...

此処は、野比家の二階、のび太の部屋。両親は、今不在中。夕方、電話を貰い親戚に呼ばれ飛び出していった。

夜の今の時間、のび太たちは、『』飯を食べていた、夕飯を食べ終え、お風呂に入つて寝ることになった。そのとき、問題が起きた。

「王ドラと一緒に寝たい。」

これは、マタドーラ。

絶対そういうと思った。マタドーラ以外みんなそう思つた事。それぐらいは、予想は出来ていた。

「王ドラはどうしたい?」

「私は、別にかまいませんよ」

王ドラがそういうの、みんなのび太と同じ部屋で全員で寝ることになった。

もちろん、スマールライトで小さくなつて寝ることに

大勢で、そのままごろんと寝るのは、無理があるという事

のび太が朝起きたときには、王ドラがいなかつた。何処にいるのかと思ひきや、台所にいたから驚いた。

「王ドラ何しているの?」

「料理しているんです。のび太さん、学校でしょう?」

「そういえば、そうだ。すっかり忘れていた。」

二階では、ドラえもんズが起き出して、騒いでいるのが聞こえていた。それを見かねた王ドラが、のび太を急がせた。

「のび太さん、早く食べてください。みんなが来ると、ゆっくり食べれないですから」

「そうだね」

のび太は、そそくと椅子に座つて朝食を食べ始めた。

王ドラつて、料理も上手なんだ。のび太は、食べて初めて分かつた。

「美味しいよ。王ドラつて、料理も出来るんだね」

「一度作つたことがあつたものですから」

自信ないんですけどねつて、王ドラは小声で言つた。

のび太は、ランドセルを持つて学校に行つた。

のび太が学校に行つているとき、家でトラブルが起きていた。そのことは、あとで分かる。

マタヌー・リトキッシュ・リズムと・・・(前書き)

王ドラ 一人称です。

のび太君が学校へ行つた後、ドラえもんは、ミーちゃんとのデートに出かけ、ドーラーハーフビーラメッシュ・ドーラコーヒーを、何処へ出掛けました。ドラパンもどこかへ残つた私とマタドーラ、キッドは、部屋にいました。

マタドーラとキッドは、何か話しています。

私は、暇だったので、家事をしていました。玉子がいない今、私がすればいいと思いましたので、自然とやっていました。

ところがその時、王の後ろにキッドとマタドーラが立っていました。二人の存在に気がついた王は、振り返りました。

「何ですか？」

「暇だから、王ドーラ何しているかなって思つて」

マタドーラが笑みを露つ。

「今は、掃除をしていますけど」

状況を見れば、分かることだと想いますけどね。

止めていたことを再開しはじめた。

掃除機で部屋を掃除し終わり今度は、トイレ掃除をしようと思つて

イレに行こうとしたとき

キッドが王の手首を掴みました。

「何ですか？」

「来いよ」

王は、キッドに手を掴まれたまま、一階にある部屋に連れて行かれました。

「一体なんでしょう？」

マタドーラは、部屋を開けて、キッド・私・マタドーラと部屋に入りました。マタドーラは、後ろ手で閉めました。

キッドは、掴んでいた私の手を解いて、押し倒しました。何をするのかと思いきや、私の服を脱がしてきたのです。

「何をするんですか？！」

「王ジーラ悪いな。けど、我慢の限界なんだよ」

キッド・マタジーラは、両者とともに私の体をまさぐつてきました。初めての私は、戸惑うばかりでどうしたら言この分からず、流されるままにされていました。

それを感じてしまい、悦んでいました。

マタタリとキャラクターと…（後書き）

悪戯・・・

キッドとマタタリが王女を押し倒して、やつてしまつ。予想できた方いましたら、教えてください。

想像通りでしたか？

評価などがありましたら、お願いしますね。何でもいいのですので
それではまた

「マタドーラ……キッド……あなたたちは、こんな事がしたかつたのですか？」

「私の氣も知りないで……酷こですよ……」

「ああ、……」

「感じてしまつなんて……」

「私の体が穢れていいく……つづ……ん……やめて欲しい……」

「行為がやんで、私の体は、動きません。」

「どうしてくれるんですか？体が動かないじゃないですか！」

「うあん」

「謝ればいいとこうわけじゃない

「許しませんからね」

「私は、暫く横になつていました。」

「どうえもんたちが帰つてきて、どうしたのって聞かれました。」

此処は誤魔化さないといけませんね。

「キッドとマタドーラと一緒に遊んでいましたら、一本背負いをされまして、動けなんです。暫くすれば、動けるようになると思いますから」

それを聞いたドリューは、「そりなんだ」と納得しました。

「本当に大丈夫？」

ドリーム、あなたは本当に心配性ですね。

私は、最高の笑顔を浮かべて「大丈夫ですよ」とドリームに言いました。

玄関の開く音が聞こえました。のび太さんが帰つて来たんですね。

「ただいま」

のび太さんは、一階に着て私の寝ている姿を見るなり、駆け寄つてきました。

みんな、ありがとうございます。

「王ドリームしたの？」

それを聞いたドリームが追うドーラの状況を説明した。

わざわざ私が言つたことをドリームがのび太さんに言つてくれた。

助かります。

私はそのまま、寝ることにしました。今日は、もう疲れました。

仲間（後書き）

前作に引き続き今回も王ドラの一人称になりました。
どうしたでしょうか？描写のほう、伝わりましたか？変なところあります
りませんでした？

評価欄に書いてくれると助かります。

評価楽しみに待っています。

仲間へドラパン s a.p.s

帰つてきたり、王ドラが畳の上で横になつていた。

一体何があつたのだらつか？

横たわつてゐる王ドラを見つてると、彼の前で俯いて座つてゐる影が二人いるのを見つけた。

マタドーリとキッドは正座をしていて申し訳ないといつたよつな顔をしてゐる。

そういうことが……

ドラパンはすぐこゝ氷がついた。そして、ため息をついた。

キッド、マタドーリ、王ドラをやつちまつなんてな……

また、ため息をついた

呆れてものも言えない

ドーラもんは王ドラに聞いてゐる。

ドラパンは王ドラがなんて答えるのか、興味を持ち耳に集中した。

「マタドーリとキッドと一緒に遊んでいたら、一本背負いをされた
動けないんです。暫くすれば、治ると思こますから」

ヒヂリさんには笑顔を浮かべて言い訳をしていた。

全く、ヒヂリに脅かされるときがある。平然に対応しちまつもんな
少し前までは苦手だつたけどな。何考えているのか分からなかつた
から

ドリマーはせんなりと納得していく。

お氣楽でこものだ。

その隣にこめるドリメリッシュヒヂリのひとを心配せつな田で見ている
よつだ。

治療すればすべに治してやるつとこつたよつな感じ

ドリえもんはヒヂリにまだ何か言つてこるよつだが、聞こえない煩
くて聞こえなかつた。

大方、大丈夫と言つてこるので

ドラパンはキッドヒマタギーの行動に注意するひとにした。

ヒヂリにこれ以上こんな感じをさせないためにも・・・だ

仲間へドラパン *s a n d* (後書き)

前回のあとがき通りにドラパン視点で書いて見ました。

王ドリ視点とドラパン視点。

見ていく部分が違うことで、違った面白さが出てくるから此処がイ
イ!

評価お願いしますね。

流石ドラパン！－何でもお見通し

その日からドラパンは王ドラの周りにいることが多かった。王ドラが家の仕事をしていればドラパンも手伝ひし、出かけば一緒に歩いて行く。それが一週間も続いていた。

お母さんは、全然気にならなかつたみたいだけど、僕たちにしてみれば気味悪いことは間違いなかつた。

（一体ドラパンどうしちやつたんだろう？）

僕はこつそりとドラパンと追うドラの後をついてみることにした。電柱の後ろからこつそりと二人の様子を除き見ている。周りから見れば、怪しいと思うかもしない。けれど、僕は気になつてしまつがなかつた。

二人は店の前まで行くと立ち止まつた。ドラパンがぐるりとこつちを向いた。

気づかれた！？

ドラパンはこつちに向かつて歩いてきた。

こつちに来る！？

あせつてきた僕は、膝ががくがくと震えだした

おでこからは汗が吹き出で、背中には冷や汗。こんなに暑くなつたのは、初めてだ

ドラパンは僕の前を通り過ぎていつた。

なんだ、気づかれてなかつたのか・・安心した

それもつかの間

僕の後ろで声が聞こえてきた

「ドラえもん！貴様どういうつもりだ！こつそりと私のあとを付けてきて！」

「じめん、ドラパン。けど、気になつていたんだよ。ドラパンが王ドラと一緒に行動するなんて」

え

僕は耳を疑つた。僕の後ろからドラえもんの声が聞こえてきた。
なんと、ドラえもんはのび太と同じことを考えていたらしい。
のび太は、見つかるとやばいから透明マントを使つていたが、ドラ
えもんは何も使っていなかつた。

だから、ドラえもんが見つかるのは当たり前。

「ドラえもん。お前に訳を話しておいたほうがよさそうだな。なぜ、
私が王ドラと一緒にいるかというとな・・・」

ドラパンはこの前あつたことを話した。

王ドラがなぜあの時動けなかつた真相を
それを聞いたドラえもんは声をあげた

「ええ、――!! 王ドラが・・・」

ドラパンはドラえもんになんていつたんだろうか？聞こえなかつた
「このことは誰にも言つなよ。のび太に聞かれたら、適当にはぐら
かしておけ」

「分かつた」

どうしてドラパンは僕の名前を出したのだろうか？

僕にはなぜなのか分からなかつた。次の瞬間まで・・・

「のび太そこにいるのだろう？姿を隠していても無駄だ。私には分
かるのだからな」

気づかれていた。

僕は透明マントを剥ぎ取り、ドラパンの前に姿を現した。

ドラえもんは驚いていたようだが、すぐに表情を元に戻した。

「流石ドラパンだね。なんでも分かつちゃうんだ？」

「当たり前だ。姿を消しても、気配で分かる。のび太、それじゃす
ぐにでも敵に見つかってしまうぞ！」

ドラパン・・・本当に君つてすごいね。

僕は改めてドラパンの凄さを思い知らされた。

流石ドラパン！－何でもお見通し（後書き）

作者の一人ごねでした。

「んにちは皆さん。無事更新でっす！！」

エラハンの一日行動と言ひ形で構成してみました。

三口子の名前が出てきたのに本人が登場していなかったと、さういふことーー！それは私のせい。いやーー、こういうのもたまに楽しむのも言い方思いまして・・ハハ（笑えないって）一人突っ込みしてないで、次回予告しなくちゃいけませんね。

さあて、次回は・・・

誰かアイデア下さい…

「ジーベン・田井の話なんて、どうだよーね？」

ついでに、ラジオの話題についても、少しお話しします。

「アーリーメッシュドあつがヒー！」

評価のほう宜しくお願ひいたします！！！

未だにドラパンと王ドラのことは分からぬが、ドラえもんが何かを知つてゐることは最近知つた。

僕は、どうえもんに聽きだすことにしてた。

学校から帰ると一階にある自分の部屋に向かつた。

たぶん、今のは時間でさえもんかしるはずだ。

たたしま

扉を開けて、中に入った。今田は、みんないなみたいだ。

たぶん、エバーアクションで車を運転させたいんだから。

アリメッシュとアリーロフは空の旅にしている。空を見上げたとき、じつに手を振つてこむのを見た。

ドリームンは、たぶんデート中。暫くすれば帰つてくるだらう

のび太は、ドラえもんが帰つてくるまでの間、宿題をすることにした

ドラえもんが帰つて来たのは、三十分後。のび太も宿題が終わつた。

「ただいま、のび太くん」

「お帰り、ドラえもん。ねえ、昨日ドラパンに何教えてもらつたの？」

のび太はさりげなく聞いた。

「えーと・・・それは・・・」

ドラえもんはあたふたしている。そう簡単には教えられない。なんせ、王ドラのことだから

「ドラえもん何を話そりとしている？」

扉が開き、ドラパンが部屋に入ってきた。

「ドラパン！」

ドラパンはドラえもんに言いつなと威圧している。ドラえもんがいう事が出来ないのを見てのび太はドラパンを見た。そして、ドラパンに聞いた

「ねえ、ドラパン。王ドラのこと何か知っているんでしょ？教えてよ」

「フッ。分かった、教えてやるわ。王ドラが横になつていたわけを・・・」

ドラパンはフッと笑いのび太に王ドラのことを告げた。

そして、このことを他のものにうなと口止めをした。

「分かった、誰にも言わない」

のび太は男と男の約束と誓つた。

「ドーラパン、気づいていたんですね？私が横になっていたわけを…」

後ろを振り向けば、王ドーラが立っていた。

腑に落ちない顔をしている。泣いてはいけないが、知られたくないことだったに違いない

「王ドーラ」

階段下からガヤガヤと騒がしい。キッドたちが帰つて来たのだろう

でも、一向に止む気配がない。

「僕下に行つてくるね」

のび太は階段を使って下に降りていった。

「のび太くんだけじゃ、不安だから僕も行つてくるね。のび太くん待つて〜」

ドーラパンと王ドーラだけが取り残された空間。

ドーラパンと王ドーラだけが取り残された空間。

立つたまま、時間だけが過ぎていく何分立つただろ？時間がそれも気にしない

（ドラパンがいつも一緒にいてくれたのって私をあの一人から護るためにだつたんですね？）

お礼を言わない」とと思い、王ドリラが言いかけたその時、ドラパンが口を開けた

「王ドリラすまなかつた！」

ドラパンは勢いよく頭を下げた。

「え」

王ドリラにしてみれば、ドラパンがなぜ謝るのがわからなかつた。ドラパンが謝る姿を誰が予測できただろ？

王ドリラはたじろぐばかり

「ドラパンが悪いわけではありません。私のほうにも責任があるわけですし・・・だから、ドラパンが謝る必要はないんです。私がお礼を言わなくちゃいけないんです。ドラパンが私と一緒にいてくれたのは、キッズとマタドーラから護るためにだつたんでしょ？ありがとうござります。」

王ドリラもドラパン同様、お礼を述べ頭を下げた。

王ドーラとドーラパンが頭を上げようとしたとき、相手の頭に「ゴシン」とぶつかってしまった。

そう、一人の立ち居地が近かつたためだ。

頭を抑えいる。

「「じめんなさい」・・」

王ドーラは痛みを堪えながらドーラパンに謝った

ドーラパンはいきなり笑い出した

「あはははは。すまん！王ドーラが涙を溜めて、謝るのを見てしまつて・・ククク」

ドーラパンはまだ笑っていた。そのくらい王ドーラが可笑しかったのだ
わづ

「そういえば、いつの間にか下が静かになつてしますね？」

「そうだな。行つてみるか」

ドーラパンが扉を開けて出た。王ドーラもドーラパンの後についていく

みんな何処にいるのかなと思い、テレビがある部屋に向かつた。

案の定、そこにみんないた。ドーラえもんズ（王ドーラ除く）がいて、
静とジャイアン、スネ夫までもがいた。

みんなで真剣にテレビを見ていた。

王ドラは向を見ているんですか？って背中を向けている仲間たちに聞いた。

みんなは背中をびくとさせ、王ドラとドラパンのほうを見た。

「なんだあ王ドラヒーラパンか。びくとさせなこどよ」

びっくりしたのはいちだとドラパンは睨んでいた

「で？ 何を見ていたのだ？」

ドラパンが聞いた

「ニュースだよ。練馬区にやたらと出没している怪盗が現れたって騒がれてくるんだ。一体誰なんだうね？」

のび太、お前大丈夫か？とみんなのはのび太を見ている。

怪盗はお前の近くにいるんだうへとも

そう怪盗を示しているのはドラパンのことなんだ。ニュースで騒がれているのは紛れもなく怪盗ドラパンである。

約束（後書き）

王ドーラ登場ー！王ドーラのことをのび太に教えたドラパン。そして、そのことを王ドーラに聞かれてしました。離れるかと思いきや、くつづいた。たぶん、このままいくとドラパンとくつづくと予想されます！評価お願いしますーー！

怪盗は誰だ？

練馬区に出没している怪盗ドーラパン。でも、それが本当にドーラパンなんだらつか？

ドーラメッシュドはドーラパンに聞いてみぬ」とした

「ドーラパン。お主何も盗んでないだらつ。」

「やつだ。此処に着てからは何もしない。エドワードと一緒に行動していたからな」

「やうのだ。こいつなんでも、エドワードと一緒に怪盗は出来ないのだ。」

ドーラメッシュドはみんながいる前でも容赦なくドーラパンに質問を投げかけてくる

「偵察しているか？」

「していない」

「此処に着てから何か変わったことせへ？」

「ない」

ドーラメッシュドはやうかと納得するとい、タイムトレーディを取り出した

「これを使って何をするのかと思こや、ドーラパンの今までの行動を見ることにした。

結果、王ドリラと一緒に手を繋いで楽しく買い物をしている姿や、アイスを食べている姿、遊園地に行って動物を見ている姿などを見たが、怪しい行動は一切ひとつもなかつた。

ただそれを見たキッドとマタドーラは、ドラパンの首を絞めていた。だが、王ドリラに止められて出来なかつたが・・

無事でよかつたね、ドラパン

のび太がそう思つたことは言つまでもない

「じゃあ、誰が盗んでいたんだ？」

キッドが言つた。

確かにそつだとマタドーラもキッドの横で頷いている。

のび太がテレビを付けた。

すると、ちゅうじゆ盗のニュース速報が流されていた。

「せつしき盗賊が捕まりました。宝石や絵画を盗んでいたのは、小さな猫のよつなロボットだったのです」

テレビに映し出されたのは、ドリリー・ヨのサッカーチーム、ミードリだつた。しかも、全員。

「うわあああ、ミードリたちだつたなんて」

リーニョがテレビに食いついている。ドラえもんはドラリーイヨを引き剥がした。

「それにしても、ミードラたちが犯人だつたなんて・・・可哀相」

のび太は、ドラリーイヨを見て呟いた。

でも、ミードラたちはすぐに釈放された。

真犯人には、怪盗キッドだつた。ミードラたちを操つていたらしい

なんと小瀕な怪盗なのだろうか

怪盗は誰だ？（後書き）

はい、最後だけ怪盗キッドが出てきました（名前だけ）
いやー、実はミニードラたちはキッドに操られていました。
このほうが終わり方が潔いかと・・
まあ、実際キッドは警察に捕まつておりません！！
評価お願いします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1503e/>

ドラえもんズ

2010年10月10日06時10分発行